常磐毎日新聞

四月十一日　夕刊

日曜祝祭日の翌日休刊
發行編輯印刷人　松本忠治
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

天氣豫報
今晩は南西の風晴
明日は北西の風晴

二町四ケ村を濡す
鮫川疏水 通水試驗滿點！
日曹の工業用水にもなる
四十二年目で難工事完成

既報櫻花も盛りの今月末盛大に通水式を擧行することになつた鮫川疏水路の第二回目通水試驗はこの程行はれたが頗る良成績であつた、同水路は上遠野、植田、渡邊、泉、小名濱、玉川の二町四ケ村の水田七百町歩を灌漑更に日本水素工業會社小名濱工場の工業用水となる蜿蜒七里にわたるもの工事は明治卅一年工費十五萬七千餘圓で起され數回の水害その他で六萬圓を追加、同卅六年一月曲りなりにも完成、ところが間もなくまた／＼大水害で隧道が決潰し復舊困難となつた、大正七、八年頃組合員中に倒産者も相當あり全く行惱んだ同九年三月復舊工事開始され新工費四十四萬七千六百餘圓にかさんだが竣工に至らず遂に昨年十二月日本水素會社が十五個の工業用水權取得の條件で十四萬六千餘圓を寄附、工事一切を引受けこゝに晴れの通水式を間近にみるに至つたもので總工費八十萬圓、着工以來實に四十二年目で完成したものである、尙この難工事の功勞者は左の如し

議員小名濱町飯塚榮次郎、渡邊村高木巳之吉現常設委員古川傳一、小名濱町長小野晋平、管理者縣地方課長富澤淸、組合主任技師齋藤彌一郎

軍用機献金

既報『赤錢献金』として小遣錢や冗費を節約して毎月献金をつゞけてゐる內鄕村第一小學校の兒童職員一同はこの程金三圓を軍用機に献金した

大都會を舞臺に
一芝居を演じた
詐欺團の面々送檢
調書のみでも千頁
近來の大事件

一味實に十名

既報＝本縣出身在京名士相手に一芝居を演じた稀代の詐欺漢鈴木昌雄(四六)の一味は去月二十一日以來次々と檢擧の手が延び登人物中にはインテリ階級のものも多いだけに地方人をして成行を注目させてゐたが約半旬に亙る取調べも漸くこの程一段落を告げ今十一日「詐欺及び文書僞造行使詐欺並に恐喝罪」で檢事局に押送された事件關係者は左の如く合計十名で數年間に亙る事件であり舞臺が東京、大阪の大都會であるところから平署の調書のみでも千頁に達する尨大さで被害は約一萬圓に及んで居り此の外記事差止に屬した被害もある

主犯東京市豊島區西巣鴨町二丁目（石城郡豊間出身）前科二犯默鐵こと鈴木昌雄(四六)東京四谷區花園町（双葉郡長塚村出身）前科一犯酒谷四郎(四三)東京本鄕區林町（仙臺市元材木町出身管野菊五郎(四五)平市南町出身當時茨城縣助川町居住原野智康(四三)東京市澁谷幡ケ谷本町早大法科出身志茂行城(四三)東京澁谷區靑山恩田早大政經科出身白水弁太郎(四二)平市胡摩澤石炭ブローカー靑木榮一郎(四二)平市研町保險外交員市島能三(六三)石城郡內鄕村田中淸水眞澄及び鈴木の妻女ふみ子(二六)

五割に充たない
教科書の總賣上
上級生のお下りで
間に合はせよが響く

平市內のマルトモ、魁文堂、佐々木の三書店今年も中等學校の教科書をはじめその參考書や各小學校の教科書を販賣したが今年は小中等學校の教科書は新規購入を控へて新入學者も進級生も上級生のお下りで間に合せよといふ縣の指示がひゞき中等學校の教科書は昨年の總賣上高の五割にも充たず本屋さん達は大こぼしである、殊に某學校の如きはそれが徹底し新入生などは一たん購入したものを再び戾すといふ有樣で販賣所の店員達は販賣をはじめてから十年近くにもなりますが未だ曾てこんなことはありません、しかしこれも國策のためならば致し方ありません と國策に殉する決意を示してゐる

舊演武場に
感謝を献ぐ
新築を前にして

既報三井榮一氏の寄附により總工費一萬三千圓で新築する事になつた平署の演武場は近く着工することになつたので舊演武場を取毀すに先立ち今十一日午後二時から舊建物に對する感謝祭を執行した

水戶運輸 通信競技

水戶運輸事務所主催地方通信競技會はこの程同事務所內で開催されたが地方關係入賞者は左の如くである

△普通競技―二等小驛野田照雄、四等植田驛久保木捨次郎、五等湯本驛若松長治△高速度競技―一等平驛野田照雄△番外競技―富山植田驛長

綴驛の乘降

綴驛における三月中の乘客は二萬四千五百五十一人、降客は二萬三千八百五十八人でこれが收入は一萬一千七百二十七圓二十錢に達つした

昨日の武道大會
劍道は平市連勝
弓道の覇者小名濱
惜しくも破れ好間へ

武德會平分會主催の武道大會は既報の如く忠魂祭の昨十日松ケ丘公園で開催、三百五十餘名の出場選手は榮ある優勝旗を目ざし奮戰したが、劍道は平市聯合分會が連勝弓道は前年の覇者小名濱分會が惜しくも敗れて好間分會が優勝した、戰績及び入賞者は左の如くである

△劍道(團体)平、澤渡、好間、湯本町、三阪、永戶、高久、玉川、內鄕(個人)平志賀義一、同增尾孝介、平商村田守、湯本入山濱岡一郎、內鄕草野將行、平商五十嵐進平、永戶柴崎重信（高點試合）永戶萩野傳重、三阪大谷重雄、澤渡草野正明、平商佐藤一、同藤井德一（小學校高等科）菊地武男、丸山一郎、長谷川忠、大竹滑（同尋常科）山名隆敏、根本正久、石山達雄、鈴木正男、久野進平、磯上久一△弓道(團体)好間、磐崎、小名、湯本、玉川、平市、內鄕（個人）小名飛田倉吉、同鈴木要、四倉佐藤倉之助、平佐藤勝信、好間本間留五郎、湯本渡邊卯兵衛、△銃劍術內鄕管島平八郎、同猪狩良雄、湯本飛知和敏雄△柔道（有段者）平武藤正、好間渡邊與四郎（段外）內鄕酒井精二、平佐川尙平、神谷金賀津二郎、平商鈴木安吉、神谷阿部浩

平女子靑年團が
資金造成の映畫
來る二十五日の夜

平女子靑年團にては遺家族慰問の資金を造成する爲め廿五日午後六時から聚樂館に映畫會を開くがプログラムは左記の如く何れもつぶ選りのものである

胡椒息子、浪人吹雪、ギャング爆擊隊、各種ニュース

小名濱支局通信

共同墓地案と
竹村師の意見
（下）

支局長　小野務平

竹村師は語を强めて斯の如く意見を述べた町が買收計畫に係る共同墓地の面積は壹萬坪である、之れに對して壹石割當てを最少限度一坪として其他の希望者には一坪百圓乃至三百圓、一坪以上は累進的加算で三百圓以上五百圓迄とする有産階級者の之れが爲めに巨額の代償を拂ふ事は萬已むを得ない所で玆に墓地整理の理由も立ち町債に依つて實行する意志にも合致すると云ふ點に重きを置いた次第であると語つた

蓋し此の案は東京を中心とした大都市に於ける墓地整理案に基くもので之れを直ちに田舍の一市街地に移して眞似る事はどうかと思はれる點もないではないが、墓地に建立する各檀家の石碑の如き實は祖先崇拜と云ふ美名に託して自己の虛榮心を滿足せしむるに均しき樣な行爲となる事が決して絕無と言いない、もし斯樣な事柄が總体的によいと考ふるなれば今後五十年、百年、或は千年の後には石碑の爲めに公道は愚か各自の屋敷までも石碑攻めに苦しむ時代が來ないとも限らないではないかと云ふ疑惧の念さへ起るを覺るのである

であるから其割當てられたる墓地の坪數は極く最少限度のもので相互が自重すると云ふ事になれば壹萬坪の共同墓地は永遠に狹隘を告げずに濟むと云ふのが竹村師の心の奥底に潛む案と見る事が出來る

更に師は語を續けて土葬禁止論に花を咲かして居る、本町の樣に火葬場が完備したる以上土葬は甚だ不合理で如何なる方面から見ても火葬合理的だ、然し永い間の慣習から各世人の腦裡にコビリついた火葬觀念が火葬は何となく無慘なるかの樣な感に打たれてあるから之れには一つの法律で土葬禁止は出來ぬものかと云ふのであつた

この意見も町營火葬場が出來揃つた以上此方針を徹底せしめて共同墓地整理案と並行せしめて以て文化的設備の惠澤に浴せしむる事が新興の氣に充滿して居る、小名濱町としては充分考慮を拂ふ重點であると師の意見に双手を擧げて贊意を表すると共に當町局の墓地整理案の參考までに此欄を割いた次第である

（完）

四倉軍友會

四倉町軍友會の會旗樹立式は今十一日午前十時から同町鎭守諏訪神社で擧行した

植田忠魂祭

植田町における戰歿勇士の忠魂祭は來る二十日御社八幡神社境內忠魂碑前で傷痍軍人、出征軍人遺家族並に國防婦人共他各種團体多數參列の下に執行される

軍用馬調練に
七十一の老爺
元氣な姿に町民感激

植田町軍用馬調練會では毎月二回以上猛訓練を行つてゐるが烏の鳴かぬ日はあつても今年七十一才になる同町字石塚農大竹末吉翁の元氣な馬乘姿を見うけぬ日はないといふ翁の嗣子政義さんは步兵上等兵で軍籍にあるが心臟病のため調練會に出られず愛息に代りせめて銃後報國せねば申し譯がないと知人達が止めるのもきかす七十一の老軀を鞭うち出征勇士の歡送迎等は勿論軍用馬鍛錬にまで活躍してゐるもので翁は落馬して死んでも國家のためだ！本望だヨツと口癖にして町民を感激させてをり町では近く表彰することになつた

泥醉の歸り袋叩
大怪俄を負ひ生命危篤
逃走加害者捕る

勿來町大日本炭坑集合長屋坑夫加藤伊作氏(四六)は九日夜十一時半頃飲酒泥醉歸宅の途中同坑々夫岩崎義衛(二八)寺田金之助(二〇)伊藤幸次(二七)酒井幸男(二七)の四名と突當り口論の末四名のため散々毆打され股間其他に重傷を負ひ目下炭礦病院で手當中だが生命危篤である

一方加害者四名はそのまゝ逃走したのを植田署柏木、佐藤兩刑事が追跡の末十日未明檢擧した

棄權者が多く……
再選擧を行つて
決定した江名農會總代

既報＝江名町の農會總代選擧は去る四月一日行はれたが棄權者が意外に多く法定得票數に達しないところからこの程再選擧を行つた當選者は左の如くである

近藤吉松、小川國治、渡邊淸、丹野妙吉、片寄千賀之助、作山源三郎、伊藤政治、薗田善之助、秋山徹、伊藤昇田仲勘右衛門、渡邊廣公、小松孝一、馬目寅松、作山正平、吉田喜三郎

觀櫻客に
平局の奉仕
園內に臨時出張

平郵便局にては既記の如く松ケ岡公園の櫻花にタイアップして觀櫻客の便を圖り十三日から十九日迄第二公園公衆電話の附近に臨時出張所を開設左の事務を取扱ふ由

一、普通々常郵便物引受
二、郵便切手類の賣捌
三、風景人スタンプ押捺印

但し取扱時間は午前十時から午後五時までゞある

忠魂祭の日
記念の撮影

平市聯合靑年團幹部一同は昨十日忠魂祭參列後前戰將士に送るため銅像前で記念撮影を行つた

巡査部長
平署の異動

警防課新設並に情報課の廢止に伴ふ警官の異動は十日發表されたが平署の菊地嘉芳部長は富岡署へ同宗像正雄部長は小野新町署へ各榮轉された後任は三春署の熊谷四郎部長と部長に昇格した平署の佐々木太藏氏である

窮餘の一策か
煙草のバラ賣
明かに專賣法違反

平市のバット飢饉は物すごいもの、月三回の配給は文字通り燒石に水で忽ちにして賣り切れて了ふ極度の愛煙家は市外の村はづれまでわざ／＼買ひ出しに行くが何處も同じ品切れで悲鳴をあげてゐる、一方小賣店側では棚ざらし高級品はこの機に！とばかりあの手この手でストックタバコの押賣策を講じ中には高價タバコのバラ賣りを行つてゐる小賣店も見られて來たこれは明かに專賣法違反で專賣局平出張所でも警告を發した

山崎上等兵
戰士の詳報

泉村大字瀧尻出身佐藤賀部隊上等兵山崎虎男君は既報の如く名譽の戰死を遂げられたがこの程赤堀道太郎隊長から左の如き戰死詳報が實家に報ぜられた

一月十日架橋材料偵察のため湖北省黃陂縣橫店から徒步で鐵道線路上を掘口に向ふ途中橫店南方一キロの地點で敵襲に會ひ無念や左側胸部に貫通銃創をうけ直ちに在揚子池田龍兵站病院に送られたが途中〃殘念だ／＼〃と連呼しつゝ掘口驛通過直後午後八時戰死を遂げたり

坑夫の行方

河沼郡下谷村大字展野本村田崎淸(二八)君は最近迄內鄕村大字宮字瀧ノ內長谷川某方で炭礦坑夫となり働いてゐたが行方を晦ましたからと今十一日實母のハルさんから平署に搜索願が出た

ラジオ
JOHK

今晩の部
▼後六、〇〇 子供の時間 歷史物語「鳥居强右衛門」竹下豬麿
▼後六、二五 講演「聖德太子の御事」花山信勝
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後八、〇〇 獨唱、合唱と管絃樂
▼後八、四〇 靑年の時間「國家の必要とする靑年」經濟學博士太田正孝
▼後九、〇〇 新躍曲「一等兵戰死」伊藤昇曲外

明日の部
▼前七、〇〇 朝の修養「維新志士の心」藤井稿治
▼前九、四五 幼兒の時間「歌のおけいこ」平井美奈子
▼前一〇、二〇 家庭の時間「日本人と魚食」春日信市
▼前一一、〇〇 小學生の時間「尋四」物語劇「白い鳥の皇子」大阪童話劇協會
▼後〇、〇五 トーキー音樂―メトロ映畫會（試寫室より中繼）―「グレイトワルツ」
▼後二、〇〇 小學生の時間「高等科」常識講座「新らしい經濟語の解說」前田梅松
▼後三、三〇 教師の時間「低學年兒童の取扱について」
▼後五、三〇 靑年學校教師の時間
▼後六、〇〇 子供の時間 コドモ時局講話「戰爭と銃後の護り」陸軍步兵大佐杉野巖
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 講演
▼後八、〇〇 舞臺劇―歌舞伎座より中繼「安宅」
▼後九、〇五 絃樂合奏「チエロと絃樂夜曲」

移轉廣告

今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候

昭和十四年四月

平市南町十四番地（警察署通り角）
（舊診療所　平市六丁目）

外科一般
內臟外科
性病科
肛門病科

木村外科醫院

木村淳
電話三〇九番

◎入院應需

愛憎三度笠

吉川延作
瀧秋方畫

悲哀　十一
…（230）…

「俺には、唯一度あの男とは深い關係があつたからだ」

源十郎はから相手の侍にいつた。

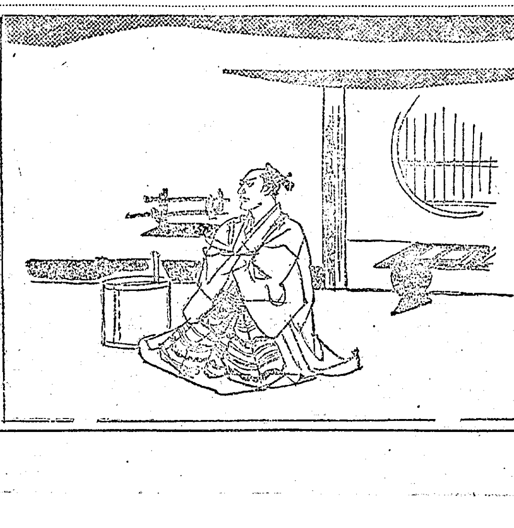
「深い關係とは」

と、其侍が更に深く追及した。この時源十郎の態度は俄然として尖鋭化して來た。

「止さう、そんなくだらない話は」

フツと、頰をふくらせて空を見上げたのである。そんな事は知らねばならぬ道理がないのである。

「くだらない話ぢやないよ。俺達にとつても、拙者にとつても大な問題だからなア」



と、相手の手をゆるめやうとはしない。源十郎は冷やかに、

「君の追及を思へばこそ、今まで相當讓歩をして來たのぢやないか、然し君達が一度決心したことには金輪際變りはないのさ。それを信じるか信じないかは君達の勝手であつて拙者の關せざる所ぢやないか」

彼がそこまで云つた時、その侍の[illegible]がかすかに動いたのである。

「わかつた、勝手にさせよう、勝手にさせていゝのだね」

「仕方がない。君達の考へることは君達の自由である」

「君の命にかゝはるやうなことがあつてもいゝのだね」

「ハヽア、おかしなことをいふぢやないか」

源十郎は依然として相手の顏を見た。

「君、命にかゝはると云はれて自說をまげる譯と思つてゐるのかね」

と、詰め寄つたが、相手の武士はひやゝかに[illegible]て、

「その判斷も、君達の自由にしやう」

と、いひ放つた。

「さうか、それでは貴下に用事はないと思ふ」

「あるよ」

「金か」

と、源十郎は唇をまげて微笑した。

金は、源十郎には直に工面することが、出來なかつたのである。で、金のことを云はれるとどうしてよいのかわからなかつた。

「金だ」

相手は、この場合源十郎に[illegible]何でも同志への醵金にその金を持つて歸らねばならないのである。

「金にない」

と、源十郎がうめくのを

「ないでは濟まれぬ」

「さうか、仕方がない」

源十郎は、こゝで最後の態度になるかと思つたら、意外にもそつと膝にしてゐた小刀を[illegible]抜きとつたのであつた。

「金子は、確に三十兩だつた、この小刀は、三十兩の刀屋へ持つて行けば三十兩なら讓つて買ふ君の方で勝手に處分してくれないか」

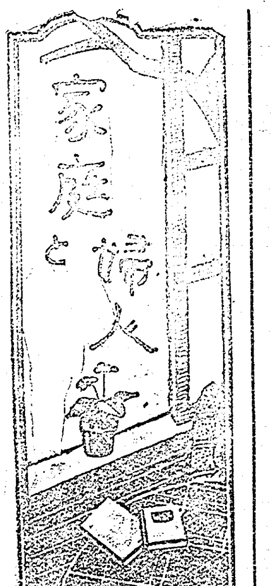
と、いつた時、その男はしばらく彼の顏をみいつてゐたがその小刀が源十郎には自慢の小刀であつたことを此男は知つてゐるその自慢の小刀を、讓つて手放した源十郎の、不思議な態度に一度はあきれた相手には、依然として太息をした。

「源十郎も思ひ切つたな」

と、深い思ひ入れをしたのか、源十郎はギロリと流し見たさ、

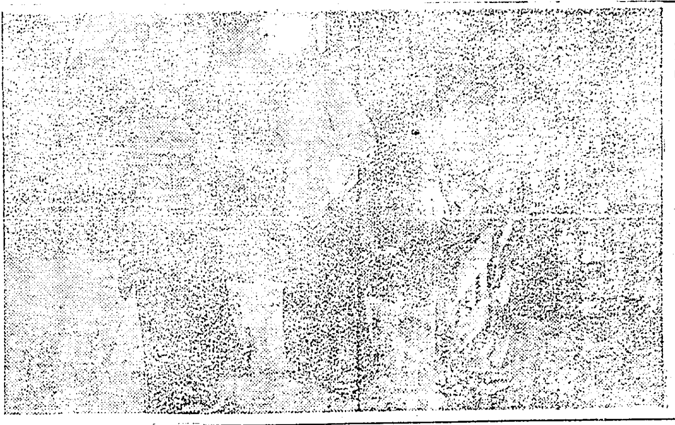
「何でもいゝさ」

と、微笑する。



三人よれば喧しい
オシヤベリは女の天性
頭からおしやべりだといつて 彈壓すべきでない

「婦人はおしやべりだ」三人よればやかましいとさへ云はれてゐます。事實女はおしやべりですが、さて何が彼女をおしやべりにさせた一と考へる人は先づすくなくて、頭から「女はおしやべりでいかん」と男の人はどやしつけるのです。しかし物事にはすべて原因があるものですから、靜かにその原因を考へて見た時、次の樣な理論に到達したのです。すなはち女がおしやべり屋たらしめた本質的の原因をこのごろやうやく發見したわけです



それは誰かと云ふと……女は本來母性である、子供を對手にすると云ふ事がその生活の代表です、そして子供の對手をするには、しよつちゆう何かしやべつてゐなくちやなりません、この習慣が女をおしやべりにする、そしてつひに女の天性になつたのでせう。かう考へてみると、おしやべりは中々大切な女のうまれつきだ、女はおしやべりだからイカンと頭ごなしに彈壓すべきではない、このうまれつきを正しくのばす事こそ

教育 の任務だとかう教へたわけです、女はおしやべりだと云つても一般に云つて下らない事しかしやべらない、かげでは舌に油がついた樣にペラ〳〵やつても公けの席だとおしの樣になる、又云ふべからざる事、云はないでもよい事をしやあ〳〵としやべつても、云ふべき事は一言も云へない、つまりこまるのは、女のおしやべりのかうした性質です、で、おしやべりはおしやべりでも誰の前で云つてもはづかしくない樣な公明正大なおしやべりの出來るやう豐富な常識をそなへ話し方の訓練をすべきだとおもひます、それから引いて、女は子供ばかりでなく、犬だの人間だの、たましひのないものまでも對手におしやべりをします

この 性質がやがて女に形なき原因との通話をさせる事になつたのではないだらうか、私は昔からいちこだの、[illegible]だのと云ふ種類の者はどうして女にかぎられてゐるのだらうと不思議におもつて色々しらべてみたがどの本にもその事は書いてないが私の考へではやはり今云つた對手があらうと無からうと、こつちの云ふ事が分らうと分るまいと一人で勝手におしやべりをする女の性質から來てゐるのではないかとおもひますが、どうでせう、一人言のおしやべりをすると云ふことは女のも一つの特徴的推理とむすびついて

交靈 術的の迷信犯罪に女をふか入りさせますが、そこまで行かないまでも、女の感覺につてやつほど迷惑なものはないのですね。これも直感力、感受性の強い事は決して惡い事ぢやないが從來の教育ではセンチメンタリズムを、[illegible]にしてゐる、女には[illegible]なく、もつと[illegible]理的な[illegible]力をやしな[illegible]にしなければならないとおもひます

○　○　○

ジヤガイモの 貯藏法

ジヤガイモは乾燥しなければいけません、しめつたところにおくとすぐくさりはじめます、新聞紙につゝんで棚の上などにおくにかぎります

日記を書き出す
年ごろの特徴
親はよく之を心得ておかないと 大事な子供を誤る

小學生がきれいな日記帳を求め、喜びにあふれてかきはじめるのは大ていの年のはじめが多い樣ですが、これは先生や兩親のすゝめで行ふのが大部分です、しかし自分からすゝんで日記をもち、心持をそれにかきこむのは、いつはらぬ[illegible]期に入りかけた中、女學生やそれと

同年 齡の人達です。ウヰーン大學教授シヤロット・ビユラー女史の調査によると、世界各國の學生の、少くとも三分の一以上は日記帳をもつた事があるか、或は現在でも日記を書きつゞけてゐると見られさうですが、女史はこの年齡期の子女の日記の書き方に二つの特徴を見出しております、一つは日記をつける期間が非常にみぢかい事で、全體の三分の一は約一ケ年しか書きつゞけません、しかも男子は女子よりそのあらはれがいちぢるしいのです

第二 は日記をかきはじめる年齡は女子は十四歳、男子は十五歳から十八才までの間と一定してゐる事、また日記を中止する時季は、十九才と二十一才の間、と決つてゐる事です。女子が男子よりも日記をもつ年齡が早いのは、女子が早熟である事をしめして居りますが、[illegible]あるひはウヰーンの下層階級の女子はこれを書きだす時代に男子と遊ぶ事やいん賣で金を得る事を知りはじめるのです。同時に兩親や家庭に反抗をしめしだすときでもあるのは

兩親 方の論もかはらず[illegible]するところです、成人は[illegible]の中で[illegible]をまげないでゐながら、外面では他人と調子を合せる[illegible]が出來ますが、[illegible]の女子にはそれが出來ません、他人や外部の事は考へずに、自分をつよく主張したり反抗の態度をどん〳〵云つてしまふのがとく徴です、でかうした年齡の女子が日記をもちはじめるのは親からはなれて自分だけの世界をもち、自分を[illegible]としてあらはすのを滿足するために役立てる手段なのです。これだけでなく、手紙も同じ事で

友達 どが、自分のあて名で自分が手紙をかき、投箱するといふ思つた行爲などもすべて自分を外部の社會に連絡させてゆくための一つの手段なのです。この際に日記を自分から親になどかくれてかき出す時期は、兩親に最も反抗する時で親にとつては非常に厄介なむづかしい年ごろなのですが、自分を社會に融合させて行くためにこれをつけるのだといふ事をよく理解して子供を見てやるべきですし、またかうした微妙な時があるからこそ、日記には意味があるわけなのです

下駄の長保法

新しい下駄は[illegible]になる時、[illegible]から[illegible]へかけて、五六分間水につけますと、われたり[illegible]がぬけたりする事はありません。それからはいてゐる中に[illegible]がまくれましたら、そのまゝではかずに、時々氣をつけてはく樣にしますと、はき[illegible]もよく[illegible]ちしますから大變經濟になります

家庭寶典
洋食のたべ方
之れだけ御注意の事

洋食が一般に普及されてゐますがいまだその召上り方を知らない人がある樣です。つぎに申上げる十四ケ條は洋食を召上がる上にわすれられぬ注意です

一、食器の音をさせぬこと
二、食事をするごとに切ること、肉の切りおきは禁ずること
三、魚の骨は口から一旦スプーンかフオークに受けてから皿におく
四、パンは手でちぎり、ナイフで切らぬこと
五、テーブルにひぢをつかぬこと
六、談話は左右の人とのみかはすこと
七、きれのナフキンで口をぬぐはぬ事
八、すきなものでも餘り多く取らぬ事
九、使用ずみのナフキンは大きく折つて膳上におくこと
十、ナイフやフオークを落とした時は自分で始末をせず靜かにしてゐれば給仕人がする
十一、うがひ中に[illegible]をかまぬこと
十二、かざりや花やナイフなどをいぢらぬこと
十三、自分より遠くにある品を取る時は手をのばさないで給仕人に取つてもらふ事
十四、人前で楊枝をつかはぬこと

どんな職を擇ぶ
兒童と職業問題
職業の將來性につき考へよ
不注意は一生の禍

高等小學校卒業生の一、二割、高等小學校の七、八割は直に職業につくのですが全國職業紹介所で取りあつかふ[illegible]の二、三わりは就職後日ならずして退職または轉職してをります、これは就職の職業の撰擇が不適當であつたことが原因してゐます、一體どの樣にして職業をえらぶべきでせうか、平市職業紹介所の鈴木信氏のお話を聞きませう

知つて戴きたい 撰擇の標準六ケ條

一 [illegible]へよ [illegible]に[illegible]の[illegible]に適して[illegible]る事、[illegible]が安いのと、[illegible]職なのと更に最近の傾向として小さい時から兩親を見てその職業と同業の職業に十分適合する者を養成したいと云ふ事由からでありまして、將來卒業する兒童もやはりあせらず徐々と自分に最も適する職業をえらんで下さい

二 次いで父兄が熟慮せよ 子供と云ふものは親の云ひなりになるか、友達が給仕だと云へば直ぐ自分も給仕になるといふ樣な事に父兄は氣をつけねばなりません そして見得のよい派出で内容は香ばしくないものがえらばれ勝です

三 職業の内容を一應しらべよ 職業の内容は[illegible]な仕事があり、同じ給仕と云つても、官廳の給仕もあれば大會社の給仕もあり又インチキ會社の給仕もあります、職業は小學校の職業調査または職業紹介所の求人種類などからわかります

四 [illegible]は[illegible]ふな 父兄の方できめると、月に一回か二回高いと云ふので將來がひらけてゐる方の職をすてゝ、寸目先のよさそうに見える方をとりがちですが、これはつゝしんで下さい、將來延び得ない仕事の事を[illegible]の樣に出られないで[illegible]職業と申します

五 本人の能力を熟慮せよ これは肉體的にも智的にも云へるので、身體の弱い子に立作業の勞働は駄目です、既に之が好きだと云ふので、學校の成績など[illegible]駄目だとわかつてゐるものを與へてはなりません、たとへば本人の氣づかない位の色盲でも色物を取りあつかふ所は駄目ですし、[illegible]にはよいが[illegible]には[illegible]

六 就職したら忍耐が肝要 これを說明するまでもありますまい、しかし兒童自身だけでえらぶ職業は經驗や常識をつむにしたがつて（小さい時は交通、少したつと職人、商賣、もう少したつと人が[illegible]する大臣、校長など〻云ふ樣に）變るものです、職業に[illegible]と[illegible]のあるしかも本人に適する職業を選擇する子供のためにえらぶ事は親の義務でせう

祖國（そこく）
堀　健吉作
畠野圭三畫

鹿島立ち（一）
二二

昭和×年十月十日！若き女醫學博士木良綾子を乘せた日本郵船の鹿島丸が、横濱の波止場から花の都のフランスのマルセーユへ向つてともづなを解く日が遂に來た。

グランド・ホテルの階上の大宴會は木良家の客で滿員だつた。美しい花をまきちらした豪華な食卓の末席に見すぼらしい百姓の夫婦がすわつてゐた、これは今度綾子の留學の心づかひで、彼女の身の廻りの小用をたしたり、彼女の傍を慰めたりするために彼女の氣に入りの少女たか子の兩親であつた。

コーラスが始まらうとするところに、千葉氏が[illegible]の[illegible]や自動車でかけつけて來た。そして一同の拍手に迎へられて綾子送別の辭を述べた。千葉氏はポートフオリオにはさんだ巴里の醫學界への紹介狀を綾子にわたし、いろ〳〵と研究上の注意を與へた。デザートが終つてスモーキングルームへひきあげた。

「八木先生はどうなさつたんでせう」

と綾子はそつと母親の耳元にささやいた。

「八木君はどうしたんだ」「八木先生は」「八木さんは」「どうしておそいんだらう？」

諸口同音に同じ疑問が投げられた。

出帆は二時だつた。ボーイが船の方へおいでになるやうにと注意した。

綾子が一同に送られて鹿島丸の甲板にのぼつた時にガラン〳〵と出帆を告げるドラがなつた。

一同は綾子、少女たか子、神戸まで一緒に行く綾子の母親を殘して棧橋へ降りた。

棧橋は人の山だつた。盛んにテープが投げかはされた。丁度アメリカへ行く絹糸組合の連中の見送りがあつたので一層の混雜であつた。

その時、波止場の人波をかきわけて一臺の自轉車が突進して來た。

「八木先生！」

綾子がさけんだ。

二度目のドラが鳴つた。

綾子は手に殘つた一本、八木へ投げるために、さつきから殘して置いたテープの玉を一にぎりその人の方へ投げた……七色の線が船から棧橋へ、人の波を越えてながれた。

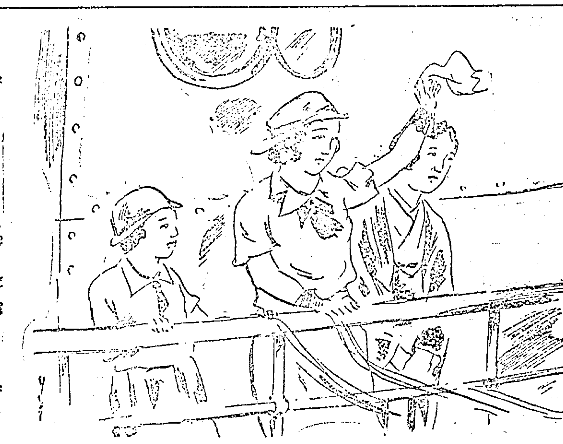
自轉車から飛降りた八木はその七彩の端の紙を兩手でつかんだ！

「行つて參ります！」

「御無事で！」

短い別れにあたつて、お互ひの間に交はされたのは、この僅かに過ぎなかつた！

船はおもむろに動きはじめた



別れを惜む樣にカモメが鳴いた。

語るべきあまたを胸にのこし、聞くべきあまたを心につゝんだまゝで、八木と綾子とは陸と海にへだてられて行く。

見送りの人の間には、その勞を犒ひあふ挨拶や、海路の無事を祈るありふれた合唱が取りかはされてゐる。

山のやうにむらがつてゐた見送り人は一人去り二人去りいつともなく影が消えて行つた。

船は[illegible]港の出口まで進んで行つた。そこでしばらくひまどつてから、またあらたに煙りをふきあげてスピードを増しながら遙かなる海のはてへと進々にその姿を小さくして行つた。

人影の全く消え去つた棧橋に、いつまでも〳〵立ちつくしてゐるのは綾子のぶじ航海を祈る八木の姿であつた。

お互にいそがしい仕事を持つてゐるためでもあるけれど、二三年も離れて暮す此の時になつて一時間も、否、三十分も、しみ〴〵語りあふ事が出來なかつたのは實に殘念で堪らなかつた。

——（完）

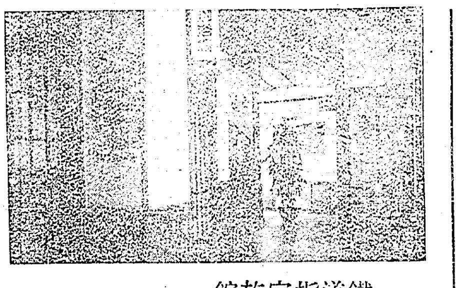
春物は
是非！
當店から
（在庫豐富）
玉屋洋品店
平 田町通 電話六五六番

芳醇！
美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

國旗と提灯

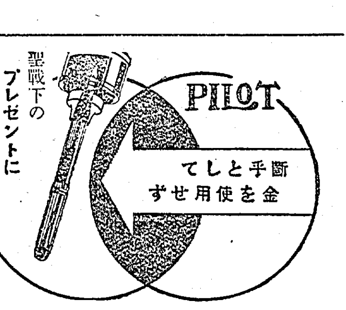
鈴木醫院
平市田町
電話五八番

外科一般 レントゲン科
内臓外科 泌尿器科
北川外科
平市新川町二七
醫學博士 北川芳夫
（電話四六四番）
◎晝夜診療・入院隨時・血液檢査毎日



鐵道指定旅館
割烹 小瀧
電話小名濱一〇三番

吸入用酸素 99%純度
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
體温計
寒暖計
秤ノ取締・墜糸・修繕致シマス
寫眞材料一式販賣致シマス
關内藥局
電話四〇番



聖戰下の
プレゼントに
PILOT
斷乎として
金を使用せず
タヲレテモ コボレヌインキ進呈
御祝 記念文字彫刻奉仕
平市特約店 佐々木商店
電話二三三番

お醬油はヤマフル
醬油 味噌
たひら正宗
鰹節 食料品
福島縣平市
釀造元
鹽屋
電話一〇 二七番
明治生命磐城代理店
山崎與三郎

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

内科
外科
一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町
電話三五八番

平市榮養元販賣店
長橋町 仙遠屋
土橋 マル・マン屋
二丁目 北海屋
三丁目 高木屋
同 丸市商店
南町平館隣 廣田商店
五丁目 正木屋
新川町 伊勢屋商店
大工町 高崎屋
研町 丸井商屋
同町 金成商店
材木町 大宮多屋
田町 平マーケット
同 かしわや
四丁目 生田魚店
同 三國屋商店
新川町 石川屋商店
七丁目 桝屋

委託問屋
海陸物産
安孫子才三郎
平市六丁目（電話五五一番）
福島、茨城縣下發賣元
（野村生命保險株式會社代理店）

宮内省、陸海軍省御用品
磯の母
榮養元
定價 十二錢 二十錢 四十錢 六十錢
事變下の今日國民體位の向上は國威發揚の重大要素であります、今回新發賣の『榮養元』は特に此の點につき多年研究の結果鰯、昆布、ハイガー其他の有効養分のみを獨特の製法により精製したる理想的榮養國民食糧であります。

（病室完備）
（入院隨時）
根本産科婦人科醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
【電話四三番】

（夜間診療）
胃腸性病
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）